

支援する会ニュース

「年金引き下げ違憲訴訟を支援する大阪の会」

支援する会事務局
第20号

2018. 1. 29

〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15 大阪グリーン会館6階 TEL06-6354-7207 FAX06-6354-7746

2018年1月24日 第10回年金裁判

寒風の中、年金裁判勝利へ熱き訴え

若者も高齢者も安心できる年金制度を



1月24日、今冬一番の冷え込みと強風の中、恒例の淀屋橋宣伝。昼休み休憩で混雑する歩道を行き交う人々に、「最低保障年金制度確立を!」「若い人も高齢者も安心できる年金制度を!」と声をかけチラシを配りました。

テロ対策名目に身体チェック

今回より、裁判所が「テロ対策」と称して空港並みの身体チェックを導入、入廷するのに30分ほど余計に時間がかかりました。裁判の公開原則に反するものです。

第10回裁判では、中田三和子さん(東住吉支部)が、「突然夫を亡くし、独り立ちできない病気の息子を抱え、これからのことを思うと不安でいっぱい。この思いを裁判官にわかっていたきたい」と力強く陳述しました。

報告集会に130人以上参加

会場をグリーン会館に移した報告集会には満席の130人以上が参加。

喜田弁護士から「多くの原告が入廷し、急遽、裁判所事務局が法



意見陳述者の中田三和子さんが裁判前集会で決意を表明

廷内に椅子を持ち込み、中田さん(意見陳述者)の周りを固める体制となり、中田さんも心強かったし、裁判官にはかなりのプレッシャーだったと思う。パワフルな意見陳述でした。これからも多くの原告・傍聴者が詰めかけていただいたら、同様の事態になり、いっそう裁判官へのプレッシャーになると思います」。

国の反論書についても、原告側との争点をわかりやすく説明しました(2面)。

報告集会には吹田市非常勤職員の雇止め撤回を求めて提訴している「対策委員会」、国民救援会からそれぞれ訴えと激励のあいさつがありました。

第11回年金裁判

- 2019年4月25日(水) 午後3時00分～
- 大阪地方裁判所 202号法廷

法廷内外の闘いをいっそう広げよう!

報告集会



国側との争点を報告する
喜田弁護士



私たちの主張に対し国側が反論

「『社会権規約』は政治的努力目標にすぎない」

今回は、前回の私たちの主張に対する国側の反論でした。

前回私たちは、「『社会権規約』に対する国際的な対応は、漸進的に達成しなければならないという状況」になっている。ベルギーにおける違憲裁判では、「『社会権規約』を法律に反映させよ」「『社会権規約』は法的拘束を帯びる」という判決が出たと主張しました。

日本においても昨年、大阪高裁の生存権裁判では不十分ながら「『社会権規約』の主旨・目的等を考慮しなければならない」との判決が出ています。

しかし、国側は「『社会権規約』は政治的努力目標にすぎない」と主張しています。

私たちは、「『社会権規約』は国を拘束するもの」という主張をしてきましたが、次回（4月25日15時～）からは、意見書にポ

ルトガルの「年金削減違憲判決」を適用し、「社会権規約」への対応は国際的スタンダードになっているという事実で争います。この年金裁判の前提事実としての「社会権規約」を裁判官に意識させ、判決に反映させるようにしたいと考えています。

たたかう仲間から訴えと連帯のあいさつ



丹羽博子さん



伊賀カズミさん

その後、「吹田市非常勤職員雇止め事件対策委員会」の丹羽博子さんから、上告受理と公正な審理を求める訴えがあり、「人間の尊厳を取り戻す闘いをともに広げましょう」と参加者を激励。また、国民救援会の伊賀カズミさんからは、「当事者の止むに止まれぬ思いや、こんな事態は許されないという率直な怒りの声が、陳述として傍聴した人たちに伝わっていき、法廷外に広く伝播していき、新たな支援を広げるのです」との激励を受けました。

「裁判官の表情をしっかりと見ながら陳述しました」

中田三和子さん(東住吉)

これまで原告でありながら1回も傍聴にも来ていなかったのが肩身の狭い思いをしていましたが、今回周りを原告の人たちが固めてくれたので心強く感じました。お陰で裁判官の表情をしっかりと見据えながら話すことができました。

ある組合員さんが「年金も少ないし、生活も苦しいので、組合をやめたい」と相談があったとき、「いま私たちは、その年金の減額は憲法違反やという裁判をしている。今度私が裁判所で裁判官に直接訴え（意見陳述）に行く」と話すと、その人は驚きながらも「それならこの組合に入っていて良かった」と感謝されま

2018年金フェスタ

日時 2月10日(土)
午後1時～4時

会場 東成区民センター

★年金者組合の存在と年金裁判を広げる大きなチャンスです。多くの組合員や家族・市民に参加を広げましょう。

